



You, Unlimited

# Ryukokoku

広報誌「龍谷」

2021 91  
VOLUME

経営学部 武田 亮子さん

## Brand Story

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、  
将来の予測が難しい時代となっています。  
いま必要なことは、「学び」を深めること。  
「つながり」に目覚めること。  
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。  
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。  
それが、私たちが大切にしている  
「自省利他」であり、「まごころ」です。  
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、  
変革への一歩を踏み出すことができるはず。





## Brand Story

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、  
より良い社会を構築するために。  
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、  
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。  
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、  
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、  
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。  
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。  
龍谷大学が動く。未来が輝く。

**You, Unlimited**







東京大学

往生論鼓

## 01 P01 Feature Article

巻頭特集 学長対談  
逆境を乗り越える  
サヘル・ローズ さん × 入澤 崇 学長

## 02 P06 Ryukoku News

基本構想400  
大学の転換期を迎えて  
将来計画「基本構想400」がめざすもの

## 03 P08 People, Unlimited

創部初の講道館杯優勝  
夢はパリへとつづく  
武田 亮子 さん 経営学部

P10  
男子バスケット部18年ぶりにインカレ出場  
コーチングが支えた奇跡の勝利  
宮田 知己 さん 国際学部

P12  
「居場所」をいち早く提供  
子どもたちに安心と輝きを  
村田 大河 さん 社会学部

## 04 P14 Education, Unlimited

オリジナル白味噌の開発で  
農の未来を考えるきっかけに  
大門 弘幸 教授 農学部

P18  
環境保全型野菜・クルベジ®を  
SDGsの課題解決に  
大石 尚子 准教授 政策学部

## 05 P22 Special Article

特別企画  
宇宙から地球に送る  
エネルギー送電の未来とは  
松室 堯之 助教 先端理工学部

## 06 P26 World, Unlimited

第一線の研究者が続々登場  
グローバルなオンライン授業が実現  
清水 耕介 教授 国際学部

## 07 P30 Event Ryukoku Museum

10周年記念の総力展示  
仏教文化のタテ・ヨコ・ナナメ  
村松 加奈子 龍谷ミュージアム学芸員

## 08 P32 People, Unlimited 龍谷人

生きる喜び、小さな幸せを描く  
唐突の転機に迷いなし  
SHOGEN (上田祥玄) さん  
アフリカンペイントアーティスト

P34  
Social Impact Bondで  
“地域のサポーターづくり”に尽力  
野口 裕加 さん  
ブラスソーシャルインベストメント株式会社

P36  
老舗三代目は  
神戸・南京町の名プロデューサー  
曹 英生 さん  
元祖豚饅頭「老祥記」代表取締役

## 09 P38 News & Topics

最新情報

## 10 P42 Book Café

新刊紹介



# 01

## Feature Article

巻頭特集 学長対談

女優

龍谷大学学長

サヘル・ローズさん × 入澤 崇

Feature Article

People, Unlimited

Education, Unlimited

World, Unlimited

People, Unlimited 龍谷人

News & Topics

# 逆境を乗り越える



**サヘル・ローズ** 女優。1985年イラン生まれ。7歳までイランの孤児院で過ごし、8歳で養母とともに来日。高校生の時から芸能活動を始める。舞台『恭しき娼婦』で主演を務め、映画『西北西』や主演映画『冷たい床』はさまざまな国際映画祭へ正式出品され、第6回ミラノ国際映画祭にて最優秀主演女優賞を受賞。俳優、タレント、キャスターとして活躍の幅を広げる一方で、国際人権NGOの「すべての子どもに家庭を」の活動では親善大使を務めるなど、ボランティア活動にも精力的に取り組む。第9回若者力大賞を受賞。アメリカで人権活動家賞を受賞。今後も世界中を旅しながら難民キャンプや孤児・ストリートチルドレンなど子どもたちとともに生きていくことが目標。



「サヘルさんがTVで語った『おかあさんを愛している』という言葉聞いて涙が出た。日本語の“おかあさん”という言葉がこんなに美しいと思ったのは初めて。サヘルさんが語るおかあさんには特別な想いを感じました」と卒業生から聞いていた入澤学長は、サヘル・ローズさんとの対談を心待ちにしていた。

**サヘル:** 私はいつ生まれたのか、本名さえもわかりません。誕生日は養子縁組が成立した日。名前も養母がつけてくれました。サヘル・ローズ(沙漠に咲くバラ)。どんな状態でも一輪のバラのように咲いてほしいと願いを込めて。私が苦しくて自殺を考えたとき、おかあさんが「いっしょに死のう」って言ってくれました。その瞬間にやっと本当の親子になれたんだと感じました。ここまで言える人ってすごいなあって。

**入澤:** 人は相手から存在が認められたときに、はじめて生きてよかったと思えるんですね。サヘルさんがおこなっている孤児院や虐待を受けていた子どもたちへの支援活動は幼少期の体験が礎になっているのでしょうか。

**サヘル:** そうですね。これまでの経験があったからですが、向き合うまでには時間がかかりました。でも、経験した痛みって無駄にはならないから、隠す必要はまったくなくて、痛みを気づいてもらえれば人って救われるんですよ。痛みというのは共有すれば相手を癒やす効果もあるんです。だから私がみんなに言うのは「がんばらなくていいんだよ、背伸びをするのはしんどいことなんだよ」って。それから若い方は、自分探しをする人ってたくさんいると思うんですが、自分を探さなくていいんですよ。自分探しではなく、経験することで

成長、自分自身を肉付けしていくことが大切だから。失敗をする年齢かもしれない、でも失敗は自分の頭のなかで成長という言葉に切り替えると、新しい景色が見えてきます。そのため、寄り道は決して無駄じゃない。いろんな発見ができるはずだから。

**入澤:** 大切なのは痛みの共感ということですね。相手の痛みに気づく、そして共有する、それができれば非常に優しい世界がつかれる。今はSNSで他人を攻撃したり、コロナに感染した人に対する差別があったり、人が人を人為的に苦しい状況に追い詰める、これはあってはならないことなんです。どうしてこうなるのかというと、相手に対する想像力が働かないからです。人の弱さというのは本当は強い力を持っていると思います。自分の弱さに気づくというのは、よりよい社会をつくる上で一番必要なことじゃないでしょうか。

**サヘル:** まったく同感です。私はいつも弱さは長所だと思っています。自分が弱くなったときに、人って誰かのせいにしたがったり、誰かを攻撃しようとしたりするのだけれど、投げたブーメランは自分に返ってくるってことを絶対覚えておいてほしい。だからこそ、弱っているときに自分がちゃんと正しくいられるか、優しくいられるか、人を愛せる人間でいられるか。それは与えられた試練であり「自分だけがよければ」では世界は動きません。

**入澤:** このコロナ禍は人間が心と心の交流を促進する絶好の機会じゃないでしょうか。何が幸せで、どういう世界が理想なのかを考えて点検する。人は対話を通じて言葉からお互いの感性や気持ちに近づけるのです。今コロナ禍で人と会えなくなった、それを逆に心を近づけるきっかけにするべきですね。



入澤 崇 いりさわ たかし 龍谷大学学長。1955年広島県因島生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。専門は仏教文化学。1990年文学部仏教学科に着任。ベゼクリク石窟壁画の復元事業や数多くの仏教遺跡調査に従事。2004年から5年間アフガニスタン仏教遺跡学術調査隊の隊長を務める。龍谷ミュージアム館長、文学部長を経て、2017年4月に学長就任。



**サヘル:** コロナ禍で、初めて人類が平等な立場にたっているのではないのでしょうか。同じ苦しみのなかを生きている、こういう時こそ調和し共存することが大切です。自分で使える時間ができたから、学べなかったこと、できなかったことを今やるべきです。この時期をインプット期間に変えて準備をした人は、コロナ禍が終息した時、いち早くスタートできます。若者にとっては一番輝きたい時、一番楽しみたい時なのに苦しいと思うでしょう。だけどこの時代を経験して、乗り越えた若者は私達以上に強くなれるはずですよ。40代、50代となったときに自慢してほしい。「あの苦しい時期を経験してきたんだよ」って。この時代を生き抜いたことを自信につなげてほしいと思います。

**入澤:** こういう危機的な困難な状況でこそ人間の本質というのが見えてきます。制約がある状況のなかで自分自身を高めていく、自分の頭で考える、工夫をすること。若い世代のパワーでこれまで日本人が生み出せなかった新しい知恵を発見してほしい。380年の歴史がある龍谷大学は、創立400周年を見据えた長期計画を立て、昨年からはスタートしています。そのなかで世界の平和に寄与する大学をめざすという構想をうちたてました。戦争の犠牲になり、困っている子どもたちの支援活動をされているサヘルさんに、平和のメッセンジャーとしてのご意見をいただけませんか。

**サヘル:** 自分が生きていくこと自体が平和の意味なのかも。今の人達に必要なことって、許し合い、愛し合い、見つめること。同時に人は人種・宗教ではなく、ただの地球人であることに気づくこと。私自身は団体に属していないから大きなことはできません。一人で声を上げるしかない。でも大勢の人に届かなく

ても、私が出会った一人ひとりに、何か種を蒔き、その人が自分に向き合うきっかけになって、意識が変わり、関心を持ってくれれば嬉しいです。無関心な社会が人々を殺していくのです。支援というのはお金じゃない。想いを寄せることから支援ははじまっています。私は旅をして、自分の存在を人に見てもらうことでメッセージを伝えている。誰かが私を見てくれたから今の私があります。今度は誰かが私の背中を見て動いてくれたら嬉しいし、私も見ているから。みんな自分の目で、人の背中を見て感じて、行動し合う。一歩ずつでもいいから歩んでいってほしいです。

**入澤:** 無関心ということが争いを生じさせている。人間が前へ進む壁になっているのが無関心じゃないかなと思うんですよ。漢字の『歩』は前に進むということですよ。でも「止」という文字と「少」という文字からできている。だから前に進むためには一旦立ち止まって何ができるか考える。そして少しずつ進むんです。コロナ禍の今、これからよりよい社会を築くためにどうするのか、一旦立ち止まって、自分たちができること、一つでもいい、深掘りする時間にするべきです。

**サヘル:** 一つでもできれば素敵なことですよ。一つだけでも誰にも負けないというものを育ててください。全部できることが正解じゃない。この時代をいっしょに歩んでくれるだけで十分です。そして、こういう時だからこそ、苦しいときは苦しいって言ってください。弱さを見せられない人、がんばりすぎている人がたくさんいると思う。泣き叫びたくなるときは泣く、素直な自分の感情にうそをつかないでちゃんと向き合ってほしい。そして一番大事なことは、決して命を無駄にせず生きてください。かけがえのない命なのですから。

# 02 Ryukoku News 基本構想400

## 大学の転換期を迎えて 将来計画「基本構想400」がめざすもの

「基本構想400」とは2039年の創立400周年に向けた将来計画である。各アクションプランが2020年度からスタートしている。

龍谷大学学長 入澤 崇

### 社会変革をリードする学生を輩出する大学へ

未来を予測するということが非常に難しい時代になりました。現在のコロナ禍に苦しむ世界を誰が想像できたでしょうか。社会情勢の急速な変化にあわせて、いま大学教育のあり方もまた大きな転換が迫られておりますが、改めて「常に想定外のことが起こりうる」社会を想定し、そのなかであっても力強い存在感をもって光り輝く学生を育む大学を創っていかなくてはならないとの想いをあらたにしております。そのような強い信念のもと、将来計画「基本構想400」（以下構想400）を推進しています。

構想400は、本学が創立400周年を迎える2039年までに実現すべき大学像及び諸改革をまとめたもので、本構想期間における本学の「使命」を明確にし、2039年の到達点として「将来ビジョン」を定めています。それが「“まごころ～Magokoro～”ある市民を育み、新たな知と価値の創造を図ることで、あらゆる『壁』や『違い』を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなる」です。この実現のために、龍谷大学ならではの教育・研究・社

会貢献を展開します。「まごころ」とは、創立380年に打ち出した“自省利他”という行動哲学を、よく知られた日本語に当てはめたもので、絶えず自らを省みること、数限りない「縁」から成り立っている己の存在を見つめ、他者との関係性を重んじながら、他者の安寧に資することを考えて行動するという志をあらわしています。「市民を育む」とあえて学生ではなく市民というワードを採用したのは以下の理由です。

これからの時代の大学は、従来のように社会から切り離されてモラトリアムを謳歌するものではなく、大学4年間を社会の縮図として、多様性に富んだ他者との関係性を築くなかで強く社会を意識し、そのなかで自分に何ができるのかを考え抜き実践する場、そして学生たちが公共性というものに目覚めていく場として機能せねばならないと考えます。学生一人ひとりがまごころある市民として主体的に社会の変革をリードする「価値創造力」を持ち、誰もが気づかなかった課題を発見し、「世界の平和」のために貢献する。構想400では、そのような力とマインドをもった学生を育む学生主体の教育を推進します。





## 新たなブランディングに込めた想い

構想400のビジョンをより明確に浸透させていくために、今春よりこれまで推進してきたブランディングを一部アップデートします。2019年度に終了した第5次長期計画では「本質を知り未来に立つ」というブランドコンセプトを核としたブランディングを展開して参りました。構想400ではこれを継承しながら、さらに時代に沿った形でアップデートし「共感がある」「広く深い視野がある」「行動力がある」「影響力がある」というキーワードをもとにしたブランディングを発出します。新たなロゴマークはこれまで用いてきたロゴマークを一部改良。大学名を漢字から英文表記に改めることで、より世界を視野に入れたグローバル社会での存在感を確立していくという意味を表しました。ブランドスローガン「You, Unlimited (学生の可能性を無限大に)」は引き継ぐ一方で、主語「You」を“世界の人々”と広く捉えなおし「世界中のあらゆる人々の可能性を無限大に」としました。新たに作成したブランドストーリーでは“自省利他”を行動哲学として、地球規模で広が

る課題に立ち向かい、社会の新しい可能性の追求に力を尽くしていくことを宣言。さらに龍谷大学の教育・研究・社会貢献のあり方を示すサブストーリーを掲げました。4月には新たなデザインにアップデートしたブランディングを全キャンパスで展開し、大学内外へあらたなビジョンを発信していきます。

昨年度に構想400を策定し、教職員一同さあこれからというときに新型コロナウイルスが蔓延してしまっただけですが、私はむしろ、この危機事象が新たな大学像をつくる上で大きな契機になるのではと期待を寄せています。教室で授業ができないという想定外の事態は、教職員が学生に寄り添った教育とは何かを問い直す契機となり、オンライン授業を中心に学生一人ひとりの力を引き出す教育が生まれました。学生のなかにも向学心が芽生え、学力が上がっているという嬉しい報告もあります。このような流れは、図らずも構想400に接続できるものです。構想400をもとに豊かな未来をめざしてアップデートしていく龍谷大学にぜひご期待ください。

# 03 People, Unlimited

経営学部経営学科4年生  
大成高等学校 出身  
武田 亮子 さん



## 創部初の講道館杯優勝 夢はパリへとつづく

2020年11月1日、日本柔道のビッグタイトルの一つ、講道館杯全日本体重別選手権、女子52kg級決勝。順調に勝ち進んできた武田選手だが、講道館杯は2年連続3位、その時点の世界ランキングは57位。相手は元世界チャンピオンで世界ランキング3位の実力者。しかし、持ち味の攻撃的柔道を貫き、見事勝利。120年以上の歴史を誇る龍谷大学柔道部も初めての講道館杯優勝を成し遂げた。

柔道を始めたのは4歳。あの谷亮子さんにあやかり、その名を授けた柔道指導者の父に厳しく鍛えられた。中学・高校は生まれ育った京都から愛知の強豪校へ進学し、国内外の大会で数々優勝。実業団や強豪大学からの誘いもあったが、地元でもある龍谷大学を選んだ。

「私はどちらかというと、みっちり指導を受けたいタイプ。龍谷大学柔道部は、監督もコーチも選手一人ひとりに目を配ってくださり、また部員の熱量も大きく、それらに惹かれて進学を決めました」

学生最後の2020年、主将にも就任し、期するものがあったが、新型コロナウイルスが蔓延。大会中止はおろか、部も活動自粛を余儀なくされた。悔しさや不安を抑えるために、ひたすら練習を続けた。部員とはオンラインで一緒にトレーニング、SNSでのコミュニケーションと、主将の使命を果たしてきたことも講道館杯優勝の糧となった。

学業も疎かにしない武田さんは、これまでの敗戦の原因と感じていた緊張を克服するために心理学も勉強。平常心を保ち、「これだけ練習したのだから」と努力を自信に変える思考を身につけた。ただ、それには相当の練習量を要する。「とにかく不器用なんです。友人からも『本当に柔道強いの?』とよく言われてしまうんです」と、はにかむ姿は、柔道界が将来を嘱望する52kg級の星と思えないほど。卒業後は、柔道の強豪である株式会社小松製作所に進み、めざすはパリオリンピック。4年間の経験を活かし、パリの畳の上で戦う姿を見せてくれるはずだ。





練習に励む武田さんの姿

RYUKOKU SPORTS+【柔道部】



インカレ当日、熱心にコーチングする宮田さん



# 03 People, Unlimited

国際学部国際文化学科3年生  
大阪市立桜宮高等学校出身  
宮田 知己 さん



男子バスケットボール部  
Twitter

## 男子バスケット部 18年ぶりにインカレ出場 コーチングが支えた奇跡の勝利

指揮者によってオーケストラの音色が変わるように、コーチ次第でチームの実力は変化する。昨年、男子バスケットボール部は18年ぶりにインカレ出場という快挙を遂げた。影の立役者としてチームを勝利に導いたのは、学生コーチの宮田知己さんだ。インカレ出場枠は関西1部リーグ12チーム中5位までだが、龍谷大学は最下位でのスタートという厳しい状況であった。そんななか、チーム初の学生コーチとして宮田さんはどのような指導をおこなったのか。

「小学4年生でバスケットボールを始めたときに出会った2人の情熱溢れるコーチに憧れて以来、私の夢はコーチになること。一昨年は米国トップクラスのバスケットボール強豪校ゴンザガ大学でコーチングを学びました。私は特別バスケがうまいわけじゃない。だからこそ“宮田が言うなら聞こう”と思ってもらえる人間になろうと決めて、選手に信頼され、チームから必要とされる在り方を考え続けてきました」

宮田さんは2月にコーチに就任すると、話

す言葉の選び方から選手のやる気を引き出す練習メニューづくりなど、選手一人ひとりに寄り添いながら丁寧に関係を築いていった。最初は懐疑的だった先輩もいつしか耳を傾けてくれるようになり、半年でチームはさらにひとつになった。

「限られた時間で最大の効果を出すために、新しいことはやらず、全員が理解しやすいシンプルな作戦をたててひたすら練習してもらいました。8月の大会が始まるまでには、龍大らしいプレイスタイルが完成し、チームは自信に溢れていました。しかし1回戦は大敗。さらになんと5連敗。でも、誰も諦めなかったんです。負けるたびに全員で反省会をして練習。そしてその後、奇跡の6連勝を果たしたのです」

「人を動かすのは難しい。だからこそ、自分のパッションを伝えて人を動かす力を極めたい」と宮田さん。そして将来めざすのは日本代表チームのヘッドコーチだ、と言い切る彼の構想は夢物語ではない。ドリームチームで活躍する宮田さんの姿をぜひ見てみたい。



集まった子どもたちと昼食を囲む様子



# 03 People, Unlimited

社会学部  
コミュニティマネジメント学科4年生  
村田 大河 さん



あそび家くまくま  
Facebook

## 「居場所」をいち早く提供 子どもたちに安心と輝きを

新型コロナウイルス感染拡大に伴う学校の臨時休校。しかし共働きやひとり親など、子どもを預ける場所が必要な保護者はどうすればいいのか。「学校というセーフティネット、さらに学習の権利や機会を止める事態」と危機感を覚えた村田さんは、子どもたちを何とかしなければと立ち上がった。高校時代、学生生活での悩みに苦しむ友人の姿を目の当たりにしたことを機に、龍谷大学入学時から中学・高校生の学習支援、子ども食堂運営などに携わるNPOに複数所属して活動。地域のソーシャルワークセンターや社会福祉協議会、多くのサポーターとのネットワークを構築していた強みを生かし、「彦根子どもサポートネットワーク」を開設。「あそび家くまくま」をはじめ、2つの場を住民の方と一緒に作り、県内の学校が臨時休校になった2020年3月2日には子どもの預かりを開始したというから驚きのスピードだ。ただ、日々の支援とは異なる事態ゆえに、預かり時間中の食事の提供方法をはじめ、活動と並行しながらいくつもの課題を解決する必要が

あった。「今まで一緒に活動をしてきた方をはじめ、様々な機関の協力、経験豊富なサポーターの皆さんの迅速な対応など、この事態を乗り越えるために地域が一丸となったことで、いくつもの課題をクリアできたと思います」という村田さん。活動中は多忙を極めたが、子どもの笑顔や保護者の喜びが励みになったそうだ。

「コロナの不安から束の間でも逃れたいと親子で利用されたり、過ごし方に制限は設けず、小学生から高校生まで交流を図れるようにしたことも楽しいと感じてもらえたようです」

現在も一部拠点は「地域で安心して寄れる場」として開設。継続して通う子どもも多い。

卒業後も、これまでどおり子どもたちの支援活動を続けていくという村田さん。

「子どもそれぞれの個性にじっくりと向き合い、勉強や進学、家庭環境、人間関係などの悩みに対して、少しでもいいから力になりたい。一人ひとりが自分だけの色で輝けるようになってもらえればうれしいです」

# 04

## Education, Unlimited

農学部資源生物科学科  
大門 弘幸 教授

### オリジナル白味噌の開発で 農の未来を考えるきっかけに

#### 厳選素材を贅沢につかった極上白味噌

2020年12月13日、年の瀬の買い物客でにぎわう天津市の商業施設フォレオ大津一里山に、ひときわ多くの人だかりができた。お客さんのお目当ては、農学部オリジナル『懐石仕立ての極上白味噌』。この日3時間で100袋を完売。新聞やマスコミからも取材を受け、大きな話題となった。

この白味噌は、農学部による『持続的な食循環プロジェクト』として、農学部生と実習農場を提供していただいている農事組合法人ふあーむ牧(大津市)が収穫した米と大豆を原料に、京都を代表する老舗味噌店・株式会社石野味噌が製造したものである。このプロジェクトを仕掛けたのが、大門弘幸教授。マメ類の専門家であり、長年根粒菌との共生窒素固定などを活用した作付体系の研究をしている。

「本学保護者会の役員を務められている石野味噌の9代目石野元彦社長とお会いする機会があり、同じ大豆を扱う者同士、何か

ともにできないかとなりました。実習農場で栽培・収穫した作物を付加価値のある商品に加工し、販売する方法を学ぶ事例として、学生たちの手がけた大豆で味噌を作りたいとお話すると、石野社長から『それならば京都発祥の食文化である白味噌にしてみてもどうか』とご提案をいただき、白味噌プロジェクトがスタートしました。商品をお披露目したのが年末というタイミングもあり大成功でした。関西のお正月といえば白味噌のお雑煮ですからね」

原料に使った米は厳選した近江米。大豆は“ことゆたか”という滋賀県の奨励品種。いずれも農薬や肥料などを極力減らした環境調和型の農法でつくられたものだ。これらの材料を懐石仕立てという贅沢な製法で白味噌に。石野社長からも「提供されたお米で作った米麴は色がとてもきれいで、香りもよく、お味噌としても甘みと香りが強く、大変美味しく仕上がりました」とお墨付き。できた白味噌約4トンは一般に販売したほか、農学部生全員にも配られた。また、天津市の公立小・中学校55校の学校給食に無償提供した。





白味噌に関する詳細・  
料理レシピはこちら

開発したオリジナル白味噌



## 変わり続ける食事情、変わらない農家

成功に終わった白味噌プロジェクトだが、大門教授は「ブランド品を作って終わりではない」という。「2015年に滋賀県に農学部を創設して以来、地元の農業に貢献できる人と技術を創り出したいという使命をもって教育をおこなってきました。その一環として、経営に悩む農家の改革策の一つとし、農業生産者が製造・加工から流通・販売までおこなう6次産業化の事例を示すことが今回の白味噌プロジェクトの真の狙いなのです」

滋賀県に限らず、農村が疲弊している背景には、1970年から48年続いた減反政策が3

年前に廃止されたものの、多くの農家が経営変革ができていない現実がある。日本の米は余剰傾向で、特に昨年はコロナ禍で外食が減るなど、年間生産量730万トンのうち約20万トンもが過剰となっているそうだ。一方で、パンやパスタ食の増加からコムギの年間消費量は米の半分以上の32kg/人になっているが、パン用コムギに限れば99%が輸入に頼っているのが現状である。

「滋賀県は92%が水田ですが、水稻以外の作物生産には苦戦しています。県は需要が見込まれる麦と大豆を奨励していますが、どちらも水田ではなく畑で作る作物ですから、水田を転換した圃場で栽培するのは難しい。





農学部の実習の様子



大門 弘幸・だいまんひろゆき

大阪府立大学大学院農学研究科園芸農学専攻博士後期課程修了。大阪府立大学を経て2015年4月より現職。長年マメ科作物と根粒菌の共生などを研究する作付体系の専門家。世界の食糧危機を乗り越えるべく、持続可能な環境負荷の少ない作物生産技術の開発をめざして研究をおこなっている。「サイエンスにもとづいた現場主義」を大切にし、千葉、京都、宮古島などで現地試験を遂行。2005年第51回日本作物学会賞、2020年根研究学会学術功労賞受賞。著書に『作物学概論』（編著、朝倉書店、2018年）、「飼料・緑肥作物の栽培と利用」（編著、朝倉書店、2018年）など。

私も長年、水田転換畑での大豆の栽培方法や品種改良を研究してきましたが、なかなかうまくいきません。今回の白味噌プロジェクトによって、農家の方々にアイデアで付加価値をつければ売れるということを知ってもらい、一歩踏み出すきっかけになれば嬉しいです。学生は、人口減少や高齢化で、人材もアイデアも不足している農業生産の現場を知ることが重要で、日本の農業が抱える課題まで関心を広げてほしいですね。食をめぐる問題が転換期を迎える今だからこそ、農を学ぶのは面白いですよ」

白味噌プロジェクトは今年も継続。原料となる大豆は今年のほうが品質は上々だとか。



プロジェクトの報告会で司会を務める大石准教授



# 04 Education, Unlimited

政策学部政策学科  
大石 尚子 准教授

## 環境保全型野菜・クルベジ®を SDGsの課題解決に

放置竹林の竹炭を活用し、農地でCO<sub>2</sub>を削減

「ホクホクおやき」「たべてや もちもちしとるパン」「蒸しパン おかあぱんといっしょ」…食欲をそそられる、ユニークで楽しいネーミングの正体は、政策学部の学生たちが開発したスイーツ。全てに京都府亀岡市で栽培された「クールベジタブル(以下クルベジ®)」というブランド野菜が使われている。

龍谷大学は、2008年から亀岡市、立命館大学、京都先端科学大学と協働で「亀岡カーボンマイナスプロジェクト(以下亀岡CMP)」に参画している。プロジェクトでは、昨今、農地・山林の侵食や農作物を荒らす害獣の温床といった問題を引き起こしている放置竹林を整備し、伐採した竹を炭にして、土壌改良剤として農地に散布する「炭素貯留型農法」を推進。その農法で栽培された野菜をクルベジ®として認定し、普及させることで、農業の活性化、地球温暖化防止を図ることを目標に掲げている。

「竹を枯れる前に竹炭にすることで大気に

放出されるCO<sub>2</sub>を削減することができ、また炭は土壌を肥沃にする効果が期待できます。そのためクルベジ®農家が増加すれば、環境や地域の課題解決につながるのです」というのは政策学部大石尚子准教授。研究者として炭素貯留型農法の実証実験に携わり、2017年にクルベジ®の価値を学生の新鮮な目線で高めてほしいと亀岡CMPを授業として採用。クルベジ®のPR活動、小学校や高校などでの食農・環境教育といった様々な取り組みを学生主体でおこなってきた。ここ2年はクルベジ®を使った商品開発に着手。クルベジ®農家の方とともに、どのような野菜がスイーツに向いているか、どのような味が好まれるかを企画・検討し、何度も試作を重ねた。さらに地域連携教育の一環として亀岡市にある京都府立南丹高校の高校生とともに商品名を考案。完成した商品は、亀岡市で開催されたイベント「アグリフェスタ」や、京都市のオーガニック商品を扱う雑貨店で販売し、「おいしい」「クルベジ®を利用してみたい」と好評を得たという。



## 農業、地域の課題を発見、行動する力を体得

学生のがんばりにより成果を収めたクルベジ®を使った商品開発だが、それ自体が目的ではない。あくまでもクルベジ®の普及は、地域の課題解決のツールの一つだ。

「クルベジ®の認知度はまだまだ低いです。加えて、市場では環境に良い野菜というだけでは購買につながらないのです。農家としては、利益が出なければクルベジ®を導入できませんし、生産における環境対策の知識も十分ではありません。クルベジ®のさらなる普及には、消費者・生産者双方の意識改革や環境教育も不可欠であり、授業の重要

ミッションとして力を入れていきます」

SDGsでも掲げられる環境や食農の課題は世界各国が解決に向けて注力している。日本政府も2050年までにCO<sub>2</sub>など温室効果ガス排出実質ゼロの方針を決定。放置竹林だけでなく耕作放棄地や、生産者の高齢化、後継者不足など問題が山積する農業の改善にも本腰を入れる。こういった背景もあり、環境や食農の課題を肌で感じ、解決のために取り組む学生に対して地域から寄せられる期待は大きい。

「私としても学生には脱炭素社会、持続可能な地域社会を創造する新たな担い手、人びとの意識や既存の社会システムを変える





竹炭を作る学生たち



大石 尚子・おおいし なおこ

専門はソーシャル・イノベーションシヨン、農村地域開発、食農政策。大阪外国語大学イタリア語学科卒業。同志社大学院ソーシャル・イノベーション研究コース博士後期課程修了。大学卒業後、染織作家活動を通じて、現代の衣の在り方に警鐘を鳴らす。イタリアでアパレルの仕事に従事した後、衣とともに関心を寄せていた食農について学ぶため、大学院に進む。2015年龍谷大学着任。研究室に織り機を設置し、学生とともに作品づくりもおこなうなど、衣を種から育ててつくる「スロー・クローズ(Slow Clothes)」を提唱している。

変革者になってほしいと指導にあたっています」という大石准教授は、教鞭を執る前、染織作家として活躍をしていて、政策学の分野では異色のキャリアの持ち主。阪神淡路大震災での被災体験を機に、大量生産大量消費、成長至上主義社会に疑問を感じ、衣の課題を解決すべく作家の道へ。綿の栽培から糸紡ぎ、染色、手織りまで手がけていた。現在も「衣の自給自足」を実践し、推進。その意志は学生や地域に刺激を与えている。

「今後は、政策学部の授業という枠組みにとらわれず、農学部をはじめ他学部と連携した龍谷大学全体としての展開も進め、目標を達成したいと思っています」

# 05 Special Article

先端理工学部電子情報通信課程  
松室 堯之 助教

特別企画

## 宇宙から地球に送る エネルギー送電の未来とは

まつむろ たかゆき 幼少時より「こどもエコクラブ」に参加するなどエネルギー環境問題に興味を持つ。大学進学時に松本紘教授の宇宙太陽発電所についての講演会を聞き、壮大なプロジェクトに感銘を受けたのを機にマイクロ波電力伝送の研究者に。京都大学大学院工学研究科電気工学専攻博士後期課程単位取得。日本学術振興会特別研究員を経て、2017年より現職。



## 人類初の宇宙太陽発電プロジェクト

宇宙空間に大型太陽電池パネルを広げ、発電した電気をマイクロ波に変え無線で地上へ送る、宇宙太陽発電プロジェクト。そんなSF映画のようなプロジェクトが1970年代からスタートしているのをご存知だろうか。宇宙太陽発電の構想は、火力発電所に代わる大型基幹電力供給源として1968年にアメリカの学者から提案された。

太陽光発電は当然地上でも可能だが、気象状況や季節の変動によって供給が不安定だ。それが宇宙空間での発電なら安定した太陽エネルギーが得られるのはもちろん、地上に比べて太陽エネルギー密度が高いため、発電量は桁外れに大きくなる。ただし、実現するには「宇宙に大量の資材を運び建設をすることや保守運用が可能なのか？そもそもどのようにして宇宙から地上に大量の電気を送ればよいのか？」一解決しなければならない課題は限りない。1970年代後半、この人類初の宇宙発電所プロジェクトは、NASAで詳細に検討されたが、採算面で問題ありという結論が出て、以来研究はストップした。しかし、この時NASAで研究されていたマイクロ波による送電技術を日本に持ち帰った人物がいた。京都大学元総長で、現在理化学研究所理事長や国際高等研究所所長を務める松本紘名誉教授である。京都大学で松本名誉教授の孫弟子として、マイクロ波工学を学び、今壮大な夢を追いつけているのが本学の若手研究者、松室堯之助教授だ。

松室助教は2017年に本学に就任。研究設備が充実する本学の環境のなかで、マイクロ波送電技術を、宇宙空間ではなく、まずは身近な地上で活かすことができないかと研究をおこなっている。

「マイクロ波送電とは、アンテナから電波

を空間に放射することによってエネルギーを伝送する無線電力伝送の一種です。簡単にいうと電気を無線で飛ばす技術ですね。マイクロ波を用いて電気を送るという技術自体は、もう実現できています。実用レベルまで進んでいるのが、部屋のなかなど決まったエリアで電気をワイヤレスで送り、スマートフォンなどを自動充電するというもの。これを応用すれば高速道路を走っている車に充電できたり、飛行中のドローンに送電することも可能です。ここ数年で通信の世界がワイヤレス化したように、電気の世界でも近い将来ワイヤレスが主流になって、身の回りから電源コードがなくなるかもしれません。その技術の応用を突き進めていけば宇宙から地上に電気を送ることができる、というのが私の研究です」

しかし応用といっても、宇宙から地上までは距離が離れすぎており、送るエネルギーも桁外れのハイパワーが必要であることから、現在進行している電気のワイヤレス化技術と松室助教の研究は一線を画す。その上、宇宙太陽発電の技術開発は世界でも日本がリードしているが、研究者自体はとて少ないのだとか。

「宇宙太陽発電は実現できれば人類の希望となるプロジェクトですが、いまだに研究者のあいだでも夢物語でしょ？と思われるのが現実です。でも理屈としては可能なのです。ただ実用化するには大規模なアンテナを地上に建てるなど莫大な資金が必要で、そもそも宇宙に発電所がつくれるのかという問題があります。そこでいきなり宇宙をめざすのではなく、まずは地上で無線電力伝送を産業応用として実現化し、技術を進歩させようということで、洋上の船やドローンなど移動体にマイクロ波で電気を届けるために必要な研究をおこなっているところです」



## 早期実用化・低コスト化をめざして

なかでも洋上風力発電は実現の可能性が大きいとして日本では特に期待されている発電方法だが、海の上からどのようにして陸上に電気を送るかが課題とされてきた。

「海底ケーブルを敷設するのはコストがかかり、漁業関係などにも迷惑となることから、マイクロ波による無線送電に期待が寄せられています。ただ、マイクロ波の外にエネルギーが漏れた場合、環境や人体にどのような影響が出るのか、他の通信機器に影響を与えずに送ることができるかなどの検討も含め、「狙ったところに届ける・漏れなく送る」

という部分が大切で、そこが一番難しいところ。これまでの研究で必要な技術の見通しは得られてきたので、今後必要なのは、シミュレーションから一歩進んで産業応用を念頭に入れた研究開発です」

そのためには資金面のパートナーが必要なことから、松室助教は論文を書くかわら、協力企業探しにも奔走する。昨年は滋賀県から「モノづくり」および「水・環境」などの分野に関連したビジネスシーズを発掘する「滋賀テックブラングランプリ」にて企業賞（特別賞）を受賞、また持続可能な海とビジネスの両立を実現するためのイベント「マリンテックブランプリ」でも「フォーカスシステムズ賞」





先端理工学部の実験・実習の様子

に選出されるなど、ユニークな研究内容に共感する企業も出てきている。

「私が生きているうちに実現できるかわからないですけど、いつか火力発電も原子力発電ももうダメだ、という日が来るかもしれません。安心して豊かな電気エネルギーを享受できるように一歩でも研究を前に進め、仲間や後進を増やしていきたいと思っています」

今や世界各地で頻繁に異常気象が報じられ、気候変動への対応は待った無しの状況だ。世界各国が脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーへの移行をめざしているが、人類が日々消費する莫大なエネルギーを安定してまかなうには程遠い。日本も

2050年までに「温暖化ガス排出量実質ゼロ」を掲げているが、現在の主力策はCO<sub>2</sub>の埋め立てに依存するなど多くの課題が残る。松室助教の研究が実を結べば、環境問題はもちろん、エネルギー資源の利権争いから起こる国際紛争も解決するかもしれない。

宇宙空間に浮かべた太陽光パネルで発電した電気をマイクロ波に変えて地球に送るという壮大なるプロジェクト。エネルギー問題解決への切り札となる「宇宙太陽発電所」からのエネルギーが、松室助教のマイクロ波送電技術により地球に届けられる未来。人類が新しいステージを切り拓くことができるのは、若き研究者の情熱にかかっている。

# 06

## World, Unlimited

国際学部グローバルスタディーズ学科  
清水 耕介 教授

第一線の研究者が続々登場  
グローバルなオンライン授業が実現





## 海の向こうの研究者たちが授業を展開

「“一流”に触れた時、人は成長する」。それは、一流の人やモノの視点を借りることで、これまで見えていなかった世界が見えてくるからだ。昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、留学が必須であるはずのグローバルスタディーズ学科の学生たちも、渡航することを断念しなければならなかった。このような環境下ではじまった「オンライン授業」。コロナ禍で必要に迫られたオンライン授業で、通常ではありえない一流の授業を実現させ、学生たちにグローバルな叢智に出会う機会を創り出したのが国際学部グローバルスタディーズ学科の清水耕介教授である。

「この数年、国際学会の招致がとても多く、特に一昨年ガラパゴスでおこなわれた学会では世界の研究者たちと寝食をともにし、パブで語り合ったりしてずいぶん仲良くなりました。そんななか昨年3月に新型コロナウイルスが流行し、ハワイの学会が中止に。代わりに初めてZoomを使って学会をしてみるととても面白くて『これは使えるな』と思ったのです。そこで前期、対面授業ができないと決まってすぐ、親しくなった研究者たちに『オンライン授業にゲストで出れない?』とメッセージを送ると、みんなすぐに了承してくれました。全員が国際関係の関係性理論という分野のトップレベルの研究者たちですが、みんな快く引き受けてくれました。講師料の代わりに私も相手先の授業に出ることを条件に。これほどの世界の研究者が揃う一流の授業を連続して受けられるなんて日本でも龍谷大学だけではないでしょうか」

これらの授業の聴講は自由で他大学の学生や研究者、なかには有名な学者まで参加して白熱した議論がおこなわれたという。

キンバリー・ハッチングス氏と  
オンラインで会話をする清水教授



## ユニークな視点で世界を捉えなおす

国際関係の関係性理論はついこの5年ほどで興ってきた新しい学問で、儒教や仏教、先住民の哲学概念など世界各地にある様々な関係性の理論を用いて国際政治を読み解く学問だ。欧米中心の国際政治学のメインストリームとは異なり、非西洋地域をフィールドとする研究者が多いのも特徴である。多面的な世界観から提唱される理論は、行き詰りつつある国際社会を斬新な視点で問い直すものばかりだ。

「西洋中心主義や国家主義ではなく、文化や哲学、宗教など多様な視点からの相互作

用を研究することで、従来の国際政治学にユニークな視点をもたらすことができます。国際問題を関係性理論という新しい学問で切り開ければ、平和への糸口が見つかるかもしれません。私は東アジア政治と仏教の関連を研究していますが、普通なら仏教と政治をくっつけるなんて突拍子もないことでも意外な視点で見てみたときに何が見えてくるかが楽しみです」

清水教授は、仏教研究の第一人者が揃う本学の環境を活かして文学部の野呂靖准教授と共同研究もおこない、共著で発表した論文がケンブリッジ大学の学術誌に掲載されるなど国際的な注目を集めている。





キンバリー・ハッチングス氏を招いたオンライン授業の様子

## 最先端の学問に学生は興味津々

オンラインで登壇したのはいつも国際色豊かな研究者ばかりだ。なかでもキンバリー・ハッチングス氏は、国際政治学の大家で、国際学部の1年生が用いる教科書の著者としても知られている。ロンドンから画面を通しての授業がはじまった。そんな最先端かつハイレベルな授業に国際学部の学生たちはどのような反応だったのだろうか。

「日頃から英語オンリーの授業で鍛えられている学生さんたちなので、英語は十分聞き取れていたと思いますが、関係性理論は概念自体が難しく、日本語で聞いても理解し

にくい内容です。事前学習をしっかりとってきてはいますが、皆ついていだけで精一杯の様子でした。それでもオンライン授業が終わってから理解できなかったところを質問にくる学生さんも多く、関係性理論について興味が広がるきっかけとなったようです」

世界に新型コロナウイルスが蔓延して、改めて国際社会の脆弱さや問題点が浮き彫りになった昨今。そんな環境のなかで実現させた一流の研究者たちとの授業。海の向こうの研究者が示した視点が、今後、大きく変化していく世界で、関係性理論による平和への可能性を、学生たちに垣間見せてくれたのではないだろうか。

# 07 Event Ryukoku Museum

## 10周年記念の総力展示 仏教文化のタテ・ヨコ・ナナメ

春季企画展

### 『まるごと！龍谷ミュージアム 一開館10周年記念 館藏品展一』

2021年4月17日(土)～6月13日(日)

休館日＝月曜日(ただし、5月3日は開館)、5月6日  
主催：龍谷大学 龍谷ミュージアム、産経新聞社、京都新聞

国や地域・宗派を超えた多彩な展覧会を開催してきた龍谷ミュージアムは今年で開館10周年を迎える。今回の『まるごと！龍谷ミュージアム』での展示コンセプトは、「仏教文化のタテ・ヨコ・ナナメ」。奥行きと広がりを感じてもらいたい、と語る村松加奈子学芸員から本展の見どころを聞いた。

「特別展や企画展はお借りした作品を中心に構成することが多いのですが、一方、10年間に館藏品は着実に増え、数えてみれば400件にもものぼるコレクションになりました。その中から約100点を厳選して展示し、うち約3割が初展示になります。今回の展示を通して、仏教文化がいかに時代や地域を超えて共通する多様性を内奥しているか。私自身も興味が尽きません。たとえば、お釈迦様の姿をどう表現するか。仏像や仏画として姿を描くこともあれば、文字や足型やシンボルマークだけで表すこともあります。お釈迦様の姿をビジュアル化することを畏れ多いとらえ、

人の形として表すことを避ける発想は各地に存在します。一方で、仏像や仏画では、つくられた地域・時代の理想的な顔や体型をしていたり、気候風土がファッションに影響していることもあります。寒い地域の着衣が厚地で全身を覆っているのに対して、暑い地域では透けるような薄い衣という具合です。日本では仏教というとお寺や地味なイメージをもたれがちですが、世界的に見るとそれはあくまで一面にすぎません。龍谷ミュージアムの根幹である“仏教総合博物館”の理念と、仏教文化の多様性をわかりやすく、楽しく体感できるような様々な仕掛けをしていますので、どうぞお楽しみに」

展示作品は、インド北西部のガンダーラ地方から出土した仏伝浮彫から、江戸時代に普及した庶民向けの読本などをはじめ多岐にわたる。また、展示作品を含む会場内での写真撮影ができるのも、今回が初の試みとなる。



村松加奈子 龍谷ミュージアム学芸員



龍谷ミュージアム  
公式HP





如来像 中国元~明時代(14~15世紀)



## 08 People, Unlimited 龍谷人

アフリカンペイントアーティスト  
SHOGEN (上田祥玄) さん

### 生きる喜び、小さな幸せを描く 唐突の転機に迷いなし

「自分の人生はこれだ」。SHOGENさんはふと入った雑貨店で目にした絵画に衝撃を受けた。それはアフリカ・タンザニアで生まれたアート「ティンガティンガ」。鮮やかな色彩と独特のタッチで植物や動物がいきいきと描かれていた。それまで勤めていた大手化粧品会社の仕事は順調にも関わらず、その翌日に退職届を提出。迷うことなくタンザニアのティンガティンガ村へ渡った。このアートを継承できるのはティンガティンガ村の村人のみ。スワヒリ語も話せず、突然やってきた日本人が相

手にされるはずもないが、引き返すことはできない。めげずに教えを請うと、村人と同じ生活をするを条件に修業を許された。

ティンガティンガは、見たもの、感じたことを思いのまま描く。使う色は赤・青・黄・緑・白・黒の6色のペンキのみ。下描きなしで描く。鮮度が落ちるからだと言われ、師匠から聞いた。SHOGENさんは一年半を過ごした村での生活と、師匠の教えには数え切れないほど心を動かされた。

ある日、村の子どもたちが食後に歌い始





めた。驚いていると「なぜ歌わないの？満腹がうれしくないの？」と逆に不思議がられた。また些細なことで仲違いした若者に海に呼び出され、腰まで浸かって向かい合うよう指示される。すると二人の間に夕日の水面ができた。「これはあたたかな境界線。これでケンカは終わり」と仲良く帰路に着いた。村には3つの幸せの掬がある。「1日3食食べられる」「ただいま、おかえりと言える人がいる」「抱きしめられたらあたたかいと感じる」。人としてあたりまえの幸せに日々感謝し、ともに生きる村人たち。「人が本来あるべき姿を学び、呼び覚まされました」とSHOGENさん。幸せ

のために描くティンガティンガの精神が改めて理解できたという。

SHOGENさんが描くティンガティンガは、現地ではあまり題材にしない「人」が多い。「生きる楽しさと小さな幸せを、生涯かけて描き、伝えていきたいです」と、自ら選んだ人生の転機に、SHOGENさんは全くの迷いはない。

**しょうげん** 2008年経済学部卒業。7年間のサラリーマン生活を経て、タンザニアに渡航。現地で修得した技法を基に独自のセンスと思いを込めた作品は国内外で評価され、施設の壁画制作、ライブペイント、子どもとのワークショップなど多方面で活躍。目標は世界三大美術館での展示。



**のぐちゆか** 2020年政策学研究科 修士課程政策学専攻修了。大学院生時代にプラスソーシャルインベストメント株式会社に入社。SIBをはじめ数々のプロジェクトを担当している。実家が寺院で、地域での役割や活用、寺院自体の存続を意識したことが政策学の専攻や現在の仕事に結びついている。



# 08 People, Unlimited 龍谷人

プラスソーシャルインベストメント株式会社 営業部  
野口 裕加 さん

## Social Impact Bondで “地域のサポーターづくり”に尽力

「社会的投資」というものをご存じだろうか。経済的リターンのみを追求する従来の投資とは異なり、社会貢献事業への投資によって、経済的価値と社会的価値の両立をめざすもの。野口さんは、この新たな投資行動の普及・定着に携わるプラスソーシャルインベストメント株式会で大学院生時代から活躍している。

学部生時代、まちづくりなどを専攻する演習を通じて、地元の人と深くかかわり、活動をしたことがきっかけで、地域社会のために働くことを決意。大学院で地域課題の解決方策の一つ、Social Impact Bond（ソーシャルインパクトボンド、以下SIB）を学びながら、その知識を実務で活かしていった。

SIBとは、自治体・事業者・出資者が連携し、民間資金によって事業を実施、成果達成時に自治体が出資者に成功報酬を支払う仕組みだ。野口さんの仕事は、事業も出資も円滑に進むよう3者をコーディネートすること。SIBでは地元住民の投資が成果達成の重要なカギを握るのだが、単に出資を募っても理

解は得られない。そのため、「地域のサポーターづくり」をコンセプトに、地元住民の方々に地元の企業や店舗の事業を、気軽に応援する気持ちで参画していただけるように、わかりやすく説明し、少額でも出資いただけるようスキームを構築しています」

現在、携わるSIBの一つは、愛媛県西条市の饅頭店のプロジェクト。30年以上前のCMソングを復活させることで注目を集め、さらなる販売促進を図る。お店も饅頭も西条市で長年愛されてきたので、出資したいという地元住民が多く、販売イベントの企画提案や会場提供など、サポートの輪が自然に拡大。店側はこういった支えにも感謝し、成果達成に向けて一段と邁進しているという。

「事業者がSIBを通して、また出資者が成功報酬以上に、人のつながりや地域貢献に喜びを感じてくれることがうれしく、仕事のやりがいになります。地域の魅力を高めるサポーターの一員として私も役立っていきたいです」



**そうえいせい** 1979年経営学部卒業。株式会社老祥記代表取締役、南京町商店街振興組合理事長。創業以来の麴を使った皮に、豚肉・青ネギのみの豚饅頭は自身も大好物というほど絶品。町の重鎮ながら時流にも敏感で若手からも慕われている。2016年黄綬褒章受章。2020神戸創生懇話会委員。



# 08 People, Unlimited 龍谷人

元祖豚饅頭「老祥記」代表取締役  
曹 英生 さん

## 老舗三代目は 神戸・南京町の名プロデューサー

創業1915年。神戸南京町で行列ができる豚饅頭専門店として知られる「老祥記」。誰をも虜にする味を守り続ける曹さんは、南京町を神戸屈指の観光地にした功労者でもある。

幼い頃から店を継ぐ宿命を自覚していたが、神戸の外も見てみたいと龍谷大学に進学。学友会学術文化局E.S.S.に所属し、京都の複数の大学が加盟するESS連盟の執行委員長として活躍。アメリカ留学、バックパッカーなど、様々な経験を通して自身の強みとなるリーダー力や調整力、多様な人を受け入れる柔軟性を培った。

卒業後はすぐに店に戻り、南京町商店街振興組合の活動も開始。区画整理で一新した南京町を盛り上げるべく、中国の旧正月・春節を祝う祭の開催を企画。27万人もの集客を達成し、以降、神戸の名物イベントとなった。

第8回春節祭を間近に控えた1995年1月17日、阪神淡路大震災が発生。未曾有の被害に店の移転も頭によぎったが、組合のメンバーと炊き出しを実施。豚饅頭をはじめ温か

い食事に涙する被災者に接し、ここに残って、南京町に貢献する決意を新たにした。

2003年、組合の理事長に就任。「楽しいことは何でもやる」精神と、若手も外部の人も大歓迎、「決してダメと言わない」オープンかつ自由な組織運営によって数々のイベントを成功させてきた。今回のコロナ禍は震災とは真逆で、終わりの見えない自粛に不安を感じたが、ただ静観している曹さんではない。SNS活用を即断し、YouTubeに「南京町チャンネル」を開設。中華料理のレシピや太極拳レッスン、自ら南京町を案内する「曹さんぼ」も配信。客足回復につながっている。「この歳でユーチューバーデビューです」と笑う曹さん。恩師である政岡光宏先生（龍谷大学名誉教授）の「困難の懐に入れ」という言葉を人生の指針にしている。

「震災もコロナも逃げずに渦中に向き合うことで、不思議と人とつながり、できることが見えてきました。困難があってもチャレンジする。この思いと経験の継承も私の使命です」

## 最新情報



関西学生秋季水球競技大会で優勝

2020年10月に京都アクアリーナでおこなわれた2020年度関西学生秋季水球競技大会において、水上競技部(水球部門)が優勝。今年3連覇がかかっていた関西学生選手権は中止となり、その代替として本大会は無観客での開催となった。わずか2カ月の練習期間で活動内容・時間が制限されるなか、これまで培ってきたチーム力で見事優勝をつかみ3連覇を達成した。

## スポーツチャンバラ全日本学生選手権

：日本スポーツチャンバラ学生連盟



スポーツチャンバラサークル龍刃会  
全日本学生選手権大会 男子団体戦で優勝

2020年12月に開催された第27回スポーツチャンバラ全日本学生選手権大会において、一般同好会スポーツチャンバラサークル龍刃会が男子団体戦で昨年敗れた明治大学にリベンジを果たし、見事優勝。全国大学の頂点に立った。女子団体戦も全国3位と初入賞の快挙を遂げた。大会には13名の部員が出場し、個人戦でも優勝や準優勝など数々の賞を獲得した。



ユナスソーシャルビジネスリサーチ  
センター主催「みんなと仏教」展を開催

「仏教をもっとあたり前に、楽しく自由に語る機会をつくる」をテーマに「みんなと仏教」展を深草・瀬田キャンパスで開催。「輝け!お寺の掲示板大賞2019」(仏教伝道協会主催)を入澤学長のコメントとあわせて紹介するとともに、仏教や建学の精神とのつながりのなかで、果敢に社会に挑み自分と向き合う「仏教活動奨学生」の取り組みや、学内に掲示されてきた法語ポスター100枚を一挙に紹介。また関連するトークイベントもオンラインで開催した。





## ジェンダーと宗教研究センター 創設記念シンポジウムを開催

2020年4月にSDGsおよび本学の推奨する「仏教SDGs」の実現の一端を担うべく開設した龍谷大学ジェンダーと宗教研究センター(GRRC)は、2020年11月に創設記念シンポジウム「誰ひとりとしてとり残さないージェンダーと宗教の視点からー」をオンライン配信にて開催した。参加者約500名を前に、京都女子大学の竹安栄子学長による基調講演や、登壇者によるディスカッションなどがおこなわれた。



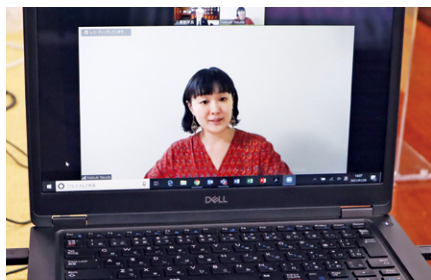
## 人権週間特別企画 西村宏堂氏 講演会 「正々堂々 私が好きな私で生きて いいんだ」を開催

人権週間で、成道会(釈尊が悟りを開いた日)でもある2020年12月8日にメイクアップアーティストで浄土宗僧侶でもある西村宏堂氏を招き、人権と平和について考える講演会「正々堂々 私が好きな私で生きていいんだ」を開催した。LGBTQ(性的マイノリティー)当事者でもある西村氏の視点で「性別も人種も関係なく皆平等」というメッセージや、LGBTQの啓発活動などについてご講演いただいた。当日は、入場制限とYouTubeライブ配信にて実施。



## 「ソーシャル企業認証制度の創設 及び推進に関する連携協定」を締結

龍谷大学ユネスソーシャルビジネスリサーチセンターは、2020年12月に京都信用金庫、京都北都信用金庫、湖東信用金庫との間で「ソーシャル企業認証制度の創設及び推進に関する連携協定」を締結した。4者が相互協力をはかり、社会問題に取り組む地域企業の成長を支えることで、地域経済の持続的成長に繋がるという企業・消費者のエコシステムを構築し、地域社会におけるソーシャルマインドの醸成及び持続可能な社会の実現をめざす。



## 20周年記念事業 「ボランティアで未来を拓(ひろ)く」を開催

龍谷大学ボランティア・NPO活動センターは、設立20年を記念して20周年記念事業「ボランティアで未来を拓く」を2021年2月にオンライン(Zoom)にて開催。大学ボランティアセンターの先駆けとして活動してきた20年の報告や、学生の分科会、入澤学長とフォトジャーナリストの安田菜津紀さんとの対談等、これからの活動について考え、交流しながら未来へ向けた新たな一歩を踏み出す日となった。



## 授業を契機に シェアサイクル「PiPPA」を導入

2020年11月に政策学部グローバル戦略実践演習の一環として、株式会社オーシャンブルースマートと連携し、シェアサイクルサービス「PiPPA(ピッパ)」の駐輪場を龍谷大学深草キャンパス「成就館」、留学生寮「りゅうこく国際ハウス」に各10～12台設置した。今後、授業を履修する学生が、留学生およびコロナ禍における学生の移動支援や、SDGsの観点でのシェアサイクル活用について、リサーチと新たな提案をおこなっていく。



## 龍谷大学REC オンライン講座を開講

龍谷大学ではこれまで約30年にわたり市民向け公開講座を開講してきた。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、やむなく全ての対面講座を開講中止としたが、これに代わるものとして、インターネットに接続したスマートフォンなどを使って、自宅などで視聴できるオンライン講座を開講した。2021年度についても、今後の状況をみながら、オンライン講座を開講する。

<https://rec.ryukoku.ac.jp/>



## 「龍谷ICT教育賞」の創設

コロナ禍において授業運営に尽力している教員や、学生の学修意欲向上に努めている教職員を対象に、優れた取り組みを称賛する「龍谷ICT教育賞」を創設(2020年7月)。

ICTツールを駆使し、教育活動に取り組む内容を「学習(教育)効果の向上」「対面授業における課題の改善」「新たな教育手法・学習スタイルの創出」の基準において総合的に審査をおこない、優れた取り組みを表彰した(2021年3月)。



## コロナ禍でのオンライン選考用に 「オンライン選考用個別BOX」を 大学内に設置

コロナ禍におけるオンライン採用選考およびインターンシップ選考に向けて、2021年1月にオンライン選考用個別BOXを深草キャンパスに3台、瀬田キャンパスに2台の計5台設置した。オンライン選考を受ける学生は、自宅や大学構内に専用の場所等がなく、周囲の騒音、部屋の背景に不安を抱いているとの相談が増加していたことを受け、学内で安心して選考を受けることができる専用の環境をキャンパス内に整備した。





先端理工学部 内田欣吾教授の研究が  
英国王立化学会「Chemical Science」誌  
に掲載

先端理工学部の内田欣吾教授の研究グループは、有機結晶中で機械のように動く分子の挙動とともに、光照射で屈曲する結晶の機構を解明した。この開発は、光で遠隔操作できるソフトロボットへの応用も期待できるとともに、今後、分子構造を変えることでさらに複雑な動きや、形状変化する結晶システムの開発が期待できる。本研究に関する論文は、英国王立化学会の旗艦誌である「Chemical Science」に掲載された。



魚類に由来するメッセンジャーRNAを  
水から検出することに成功

先端理工学部の山中裕樹准教授の研究グループは、神戸大学大学院人間発達環境学研究科の源利文准教授、三重大学大学院医学系研究科の島田康人講師らとの共同研究で、魚類に由来するメッセンジャーRNAを水から検出することに世界で初めて成功した。本研究の成果は研究を主導した釣健司さん(龍谷大学理工学研究科2年)を筆頭著者として、オンライン科学誌「Environmental DNA (Wiley社)」に掲載された。



第19代学長  
入澤 崇(いりさわ たかし)教授が再任  
(任期:2021.4.1~2023.3.31)

龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。1990年文学部仏教学科に着任。龍谷ミュージアム館長、文学部長を経て、2017年4月から学長就任。ベゼクリク石窟壁画の復元事業や数多くの仏教遺跡調査に従事。2004年から5年間アフガニスタン仏教遺跡学術調査隊の隊長を務める。専門は仏教文化学。

学部長・研究科長の就任について  
(任期:2021.4.1~2023.3.31)

文学部長に 玉木興慈(たまきこうじ)教授を選出

経営学部長に 長谷川岳史(はせがわたくし)教授を選出

社会学部長に 井上辰樹(いのうえたつき)教授を選出

政策学部長に 今里佳奈子(いまさとかなこ)教授を選出

農学部長に 大門弘幸(だいもんひろゆき)教授を再任

先端理工学部長に 外村佳伸(とむらよしのぶ)教授を選出

短期学部長に 中根真(なかねまこと)教授を再任

文学研究科長に 國下多美樹(くにしたたまき)教授を選出

社会学研究科長に 吉田竜司(よしだりゅうじ)教授を選出

理工学研究科長に 外村佳伸(とむらよしのぶ)教授を選出

実践真宗学研究科長に 那須英勝(なすえいしょう)教授を選出

政策学研究科長に 中森孝文(なかもりたかふみ)教授を選出

農学研究科長に 島純(しまじゆん)教授を選出

# 10 Book Café

## 新刊紹介

\*価格はすべて税別で表示

\*四角囲みの書籍は、大学から出版助成を受けたもの及び卒業生の新刊情報

### 『最強の男 一三国志を知るために』

竹内 真彦(経済学部教授)著



「三国志」の「物語」は、日本でもよく知られている。では「三国志」とは何か？例えば、「およそ1800年前の中国を舞台とする歴史物語」という一見シンプルに見える説明でさえ、実は「正確」とは言い難い。本書は物語序盤の主要人物の一人である「呂布」を通して、その「三国志」の「正体」に迫る。

2020年9月刊/280頁/春風社/2000円

龍谷叢書LIV

### 『ロバート・フロスト詩集 ニューハンプシャー』

藤本 雅樹(文学部教授)訳・著



20世紀アメリカ詩を代表する国民的詩人ロバート・フロストの最も重要な第4詩集の全訳に小論2篇を加えた訳詩集。経済的繁栄に沸き立つ「狂乱の20年代」の世相の中で、詩人は敢えてアメリカ東北部の地方世界に焦点をあてながら、歴史的な視点を通して、人々の心の原風景をパノラミックに描き出している。

2020年12月刊/352頁/春風社/4000円

### 『河田嗣郎の男女平等思想』

—近代日本の婦人問題論とジェンダー—

亀口 まか(文学部准教授)著



明治末から昭和戦前期に活躍した経済・社会政策学者で、大阪商科大学(現大阪市立大学)初代学長を務めた河田嗣郎の男女平等思想を、河田が残した著書・論文・記事から精査。家族制度論・公民教育論・母性保護論・社会政策論をめぐる性別への視座に注目し、その思想が、現代のジェンダー論につながる先駆性を持っていたことを明らかにする。2020年11月刊/272頁/白澤社/3800円  
書評:「日本経済新聞」2021年1月23日

### 『金融法の現在と未来』

神吉 正三(法学部教授)著



本書は、筆者が2001年に銀行員から大学教員に転職して以降、金融法について執筆してきた6本の主要な論文と、2018年度の特別研究員の期間中に研究を進めた銀行法上のアームズ・レングス・ルールに関する論文を1冊にまとめて出版したものである。

2020年9月刊/464頁/成文堂/7000円

### 『生命の農 梁瀬義亮と複合汚染の時代』

林 真司(2002年度経済学研究科修了)著



レイチェル・カーソンが『沈黙の春』を出版し、DDTなど化学薬品の危険性を告発したのは1962年のことである。しかしそれより3年遡る1959年に、「農業の害」を公式に発表し、人体に対する農業の多大なる悪影響に警鐘を鳴らしたのが、奈良県五條市の開業医・梁瀬義亮であった。梁瀬自ら実践した無農薬有機農法への軌跡を辿り、その実像に迫る。

2020年8月刊/247頁/みずのわ出版/2000円

書評:「毎日新聞」2020年10月10日



### 『楽に生きる』

大來 尚順(2004年度文学部卒業)著



人には「幸せがわからなくなった」「心配事がつきない」「他人をどうしても羨んでしまう」など、なかなか他人には相談できない不安、悩み、自分の闇があるのではないだろうか。このような日々の

暮らしの中で生じる心の問題に対し、ブツダの教えを通してその心持ちを学べる一冊。

2020年9月刊／189頁／アルファポリス／1200円

書評:「中国新聞」2020年11月8日

### 『小谷博泰の百首～ときとして異界～を読む』

吉岡 生夫(1973年度文学部卒業)著



14冊の歌集、6050首から百首を選んだ鑑賞本。作者と作中主体は別だといい、想像を超えた世界に、私たちを案内してくれる。例えばくすみれほどの小さき山羊があらはれて机上の本をかじ

りてゐたり>>まりをつけている童女ありこの道を行けばあの世と教えてくれた>>。近代短歌の伝統からはみ出した魅力なのである。

2020年10月刊／152頁／ブイツーソリューション／

1000円

### 『73歳、お坊さんになる』

荒牧 邦三(1971年度経済学部卒業)著



元新聞記者が中央仏教学院の通信教育で3年間学んだ軌跡を分かり易く詳述。西本願寺での得度の実際、学習の内容、信心の有り様など、これから仏教を学ぼうという人への手掛かりになっ

ている。

2020年11月刊／171頁／探究社／1200円

書評:「熊本日日新聞」2020年12月20日、「長崎新聞」2020年12月27日

### 『切手画作品集』

一邂逅の喜びに支えられて—1982-2020』

吉越 智秀(1964年度文学部卒業)著



「切手画」は色紙に古切手を細かく刻み彩った貼り絵作品。同じ手法のものを見たことがなく、印刷技術に唯一と自負。日本切手の印刷技術は世界最高レベルらしく、色紙にシミがついた35年以上前の

作品も切手自体は当時の色がそのまま。幾人かの勧めがあり、喜寿を機縁として200点余りの作品の中から80点を収録し、この度上梓した。

2020年8月刊／45頁／自主出版／1364円

### 『認知症イノベーション』

～一人ひとりの“パラダイス”を創造するケアメソッド～

阿久根 賢一(2010年度社会学研究科修了)著



「生きる本能」を促す究極のケアとは?認知症により様々なニーズを有する人たちが暮らす老人ホーム。しかし、認知症を有する人も、介護スタッフもみな楽しい毎日を過ごしている。その秘密は、

16年にわたる研究・実践を経て確立した、介護の常識を覆すケアメソッドにある。そのノウハウを多様な事例とともに紹介する。

2020年9月刊／184頁／プレジデント社／1500円

■『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』

上垣 豊(法学部教授)編

中世～近現代フランスの歴史・文化を、美術、食文化、モード、映画、音楽、余暇など多彩なトピックとともに明快に解説した入門テキスト。

2020年3月刊／346頁／ミネルヴァ書房／3200円

■『ことばとスコープ2 否定表現』

五十嵐 海理(社会学部教授)著

否定現象の一般的概説から、否定極性項目、否定接辞、否定表現の通時的考察、否定と否認の関係を通して、英語の否定表現の世界を解き明かす。

2020年8月刊／264頁／研究社／2700円

■『Erotic Comics in Japan: An Introduction to Eromanga』

杉本パウエンス・ジェシカ(国際学部准教授)共訳

永山薫の『(増補)エロマンガ・スタディーズ』(2014年)の英訳で、英語圏において初の総合的な日本のエロ漫画に関する書籍である。

2020年11月／290頁／Amsterdam University Press／€109,00

■『宗教改革の知的な諸起源』

平野 和歌子(文学部講師)訳

宗教改革の知的な起源が後期中世のスコラ学と人文主義に複雑な関係で存することを示し、後期中世と宗教改革期の〈連続〉と〈断絶〉を明らかにした書。

2020年11月／360頁／教文館／4800円

■『地下 ある逃亡』

今井 敦(経済学部教授)訳

戦後オーストリアを代表する作家トーマス・ベルンハルトの自伝5部作のうち3冊目。本邦初訳。名門中学を辞め商店見習いとして働く若きベルンハルトが病に倒れるまでの時期の回想。音楽祭の町ザルツブルクの影の部分が描かれる。

2020年9月／160頁／松籟社／1700円

■『消費者法判例百選(第2版)』

中田 邦博(法学部教授)共著

消費者法の重要な判例を解説した旧著の全面的な改訂版。消費者法の重要な論点についても、コラムにより学問的な検討が行われている。

2020年9月／276頁／有斐閣／2900円

■『新・コンメンタール民法(財産法)(第2版)』

中田 邦博(法学部教授)編

条文の趣旨を解説したコンメンタールの改訂版。2022年施行の改正民法に対応し、関連法令・判例情報もアップデートした。本学法学部教員も多数執筆。

2020年9月／1360頁／日本評論社／6700円

■『Fashionable Traditions: Asian Handmade Textiles in Motion』

青木 恵理子(社会学部教授)共著

アジアの様々な地域における、布の生産・流通・消費に関する複雑な様相について、比較対照に基づく考察を可能にした論集である。

2020年1月／317頁／Lexington Books／\$115

■『自前の思想 一時代と社会に応答するフィールドワーカー』

青木 恵理子(社会学部教授)共著

時代の激動に思いがけず巻き込まれながら、現場に立脚し時代と強く向き合った10人の先人に学び、学問・科学の責務を問う論集である。

2020年10月／454頁／京都大学学術出版会／4400円

■『これからの話し合いを考えよう ―シリーズ話し合い学をつくる3―』

村田 和代(政策学部教授)編

「シリーズ話し合い学をつくる」第三巻。これからの日本社会にとって、話し合いがどのように貢献ができるのかについて問い直す。

2020年12月／272頁／ひつじ書房／3200円

■『ナラティブ研究の可能性 ―語りが写し出す社会―』

村田 和代(政策学部教授)編

石原 凌河(政策学部准教授)著

人々の「語り」を紐解くことで、そこに反映されている現代の価値観や社会規範を批判的に読み解き、問題の所在と解決を導くことをめざしている。

2020年12月／240頁／ひつじ書房／3600円



## 広報誌「龍谷」のデジタル版配信について

広報誌「龍谷」はデジタル版でも閲覧できます。冊子版の発送を不要とされる方は、下記のデジタル版配信申込ページにてお申し出ください。手続き完了以降は、毎号の広報誌「龍谷」刊行ごとに、ご登録いただいたメールアドレスにデジタル版発行のご案内をいたします。



広報誌「龍谷」デジタル版配信申込ページ  
<https://www.ryukoku.ac.jp/prdigital/>

下記URLおよびQRコードから  
過去の広報誌(デジタル版)がご覧いただけます



2020年  
No.89



2020年  
No.90



Digital Library: <https://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/>

## 広報誌「龍谷」91号読者アンケート&プレゼント応募フォーム

今後のよりよい広報誌づくりのため、Webアンケートにて皆様のご意見をお聞かせください。なお、アンケートにご回答いただいた方全員が、プレゼント抽選の対象となります。



<https://www.ryukoku.ac.jp/enquete/>

## 読者プレゼント

龍谷ミュージアムオリジナルエコバック&付箋セット...5名様  
アカイノシ コーヒードリップバッグ[チャーリー深煎り]3袋セット...5名様



ご希望の方は、読者アンケートフォームにご回答ください。また、ハガキでご応募の方は、ご希望のプレゼント名を明記した上で、住所・氏名・年齢・職業・電話番号・(龍谷大学卒業生は卒業年度・学部)及び広報誌「龍谷」の感想・意見、あなたの近況などを書き添えてご応募ください。ハガキでご応募の場合のあて先は下記「プレゼント」係まで。感想や近況は「読者のひろば」に掲載させていただくことがあります。

締め切りは5月28日(金)必着。

応募多数の場合は抽選となります。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

## プレゼント・お便りのあて先

龍谷大学 学長室 (広報)  
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67  
電話：075(645)7882 FAX：075(645)8692  
E-mail：kouhou@ad.ryukoku.ac.jp

## 読者のひろば

母校の情報を知れる貴重な情報源なのでいつも楽しみにしています。これからも楽しみにしています。  
卒業生 S さん

大学の取り組みがわかり、保護者として安心できます。  
在学生保護者 N さん

自分の周りではただただ学生生活を送っているだけの人が自分も含め多いですが、本誌で意欲的に何かしている学生もいる事を知ると自分のことのように誇りに思えます。  
在学生 M さん

## お便り待っています

「読者のひろば」へのお便りをお待ちしています。また本誌「龍谷人」などへの推薦や情報をお寄せください。いずれも下記のあて先まで。

※いただいた個人情報は広報誌「龍谷」の編集以外の目的には使用いたしません。

## 編集委員(五十音順)

青戸 英夫、安食 真城、井手 健二、石崎 学、奥田 望、笠藤 ゆかり、金 紅美、齋藤 正治、塩見 洋一、竹田 純子、谷村 知佐子、デブナール ミロシュ、中川 千草、能美 潤史、野口 聡子、畑仲 哲雄、原田 太津男、平岡 雅彦、本多 滝夫、山口 大、吉岡 祥充、若林 雅子、渡邊 浩之

## 事務局

田中 雅子、山田 美由紀

広報誌「龍谷」91号  
2021年3月12日発行

編集：龍谷大学編集委員会  
制作：龍谷大学 学長室 (広報)  
発行：龍谷大学  
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67  
電話：075(642)1111 (代表)  
龍谷大学ホームページURL  
<https://www.ryukoku.ac.jp/>



公式 Facebook 「龍谷大学」

[www.facebook.com/RyukokuUniversity/](http://www.facebook.com/RyukokuUniversity/)



公式 YouTube 「龍谷大学」

[www.youtube.com/user/RyukokuUniversity](http://www.youtube.com/user/RyukokuUniversity)



公式 Instagram 「龍谷大学」

[www.instagram.com/ryukokuuniversity](http://www.instagram.com/ryukokuuniversity)



公式 Twitter 「龍谷大学広報」

[twitter.com/ryukoku\\_univ\\_pr](https://twitter.com/ryukoku_univ_pr)



**RYUKOKU  
UNIVERSITY**